



里見八犬傳

第十輯

卷十二下



法  
709  
61





門進 13  
 號 709  
 卷 61



明治十六年  
 十月九日  
 購

南總里見八犬傳第九輯卷之十二下

本輯の第七卷百零四回より第十二卷百十五回までの六卷より中帙とせしむ。第七卷の簡端の如し。あはれこの十二の巻の楮數殊に多るれは猛の啓蒙で上下二冊とせし故の中帙に七卷の巻の如し。あはれこの十二の巻の楮數殊に多るれは猛の啓蒙で上下二冊とせし。是故の中帙に七卷の巻の如し。あはれこの十二の巻の楮數殊に多るれは猛の啓蒙で上下二冊とせし。儘七の巻より十の巻まで四巻と中帙の上とせし。あはれこの十二の巻の楮數殊に多るれは猛の啓蒙で上下二冊とせし。卷上下二冊も權且中帙の下と唱へ續じて今番出で訖帙を上下に分りし勿論一需要時の程なり。是より後の七巻と一帙にて賣まざる亦是書肆の請ふ所なり。抑大江親兵衛の列傳の百四回の段左に起りて今や百十五回に至るまで今全説訖らば後又二三回なり。八犬具足の巻に至らん且八士全聚するとも物語尚多し。看官明年全局の天國圖を閱るる日者此彼推量の違ふを知りしやあらん誰か作者の腹稿を詳に探り得て未發の後回を知りし者ぞ。蘇唯その一人あり。仰て造化の小兒の問ふ。呵々。



前田岡本大刀自孝嗣と救ふ  
不刃池小親兵衛河鯉と釣る

その夜より、あつたまのまゝ、  
登時義成主の吾嬬前をさへて、俺嬬子具の所へ、  
のまゝに我女兄の神靈の示現の灼然、  
恥るあまのあまのの、長談緩話の元益、  
廣路の慰ゆる、  
せ、其頭小等て侍る、  
主君の俱り、  
啓して、  
級紛失の事、

者の稟、  
も、  
女事、  
の、  
た、  
人の稟、  
か、  
軀、  
藤、  
館、  
郎、







敵地の幫助不獲と云。那安西出来介。知勇勝れ者あり。南弥六判。朝の勇あり。その  
心許る。いかにあつた。は。而もその廳果。義成主六別席也。之家。老松倉氏元  
堀内貞。東辰相。并小右司の甲。乙。召聚合。昨夜濱路姫の危難。伏姫神の真助。ふ  
より。救ひ返さる。ゆり事。又那妖書の夏。も。詳。鮮。示。之。成。愕。然。と。面。注。て。或。の。驚。異。  
或。の。懼。囚。牢。司。の。訟。稟。奉。し。神。女。伏。姫。の。神。靈。也。女。僧。の。妙。椿。を。越。始。て。曉。得。て。奇。也。を。  
と。その。不。嘆。唱。祝。壽。の。聲。耳。も。齊。一。高。武。運。應。驗。の。違。さ。り。感。さ。る。その。然。び。稟。奉。り。義  
成。羞。る。画。色。也。明。暗。迷。悟。判。然。る。の。期。及。び。い。よ。面。多。吟。衍。と。争。何。せ。ん。異。竟。大。江。親。兵  
衛。と。遠。離。一。ま。り。妖。賊。們。が。邪。術。の。術。を。用。ひ。然。び。と。親。兵。衛。を。も。身。総。二。國。の。兵。と。盡。し。  
伐。の。報。せ。せ。ん。や。然。し。と。い。又。躬。方。の。王。卒。に。損。も。も。思。ふ。も。始。り。征。伐。緩。き。り。  
公。素。藤。我。と。侮。り。て。做。さ。る。と。思。ふ。今。千。萬。悔。も。及。び。只。速。親。兵。衛。を。召。へ。躬。方。不  
利。あ。ら。ぬ。汝。連。の。美。と。何。と。思。ふ。と。問。せ。ぬ。氏。元。の。負。け。辰。相。と。共。侶。膝。を。扱。り。稟。奉。り。御。説

定。不。の。理。の。御。不。故。り。親。兵。衛。と。遠。離。さ。る。ひ。賢。慮。の。程。と。料。難。で。慨。し。思。ひ。け。り。開。の  
妙。椿。が。反。面。の。幻。術。の。所。以。る。方。僅。發。覺。れ。り。公。私。の。幸。ひ。併。伏。姫。神。の。真。助。の。君。が。仁。政。の。心。報。を  
と。も。の。め。と。い。へ。又。負。け。の。臣。們。が。愚。意。の。氏。元。と。異。多。く。も。い。は。大。江。仁。が。啓。け。り。日。經。て。往。方。を  
知。ら。せ。と。い。ふ。心。當。る。處。へ。追。隊。と。其。ま。せ。ぬ。又。姫。神。の。真。助。も。も。索。逢。ぶ。ぐ。い。ん。と。い。ふ。辰  
相。も。亦。稟。奉。り。仁。と。召。さ。り。使。者。番。崎。十。一。郎。照。文。と。姥。重。與。四。郎。と。を。召。し。來。れ。十。一。郎。を。親  
兵。衛。が。仙。伝。り。相。識。さ。り。又。與。四。郎。の。伏。姫。神。の。引。接。真。助。と。蒙。り。て。六。松。富。山。親。兵。衛。と。守。傳。と。  
る。因。り。他。們。御。説。と。傳。達。し。て。説。薦。め。る。親。兵。衛。が。泣。き。て。稟。奉。り。わ。り。ま。り。な。り。ま。り。さ。る。こ。の  
さ。る。但。十。一。郎。も。與。四。郎。も。瀧。田。御。城。内。の。い。は。某。の。使。と。奉。り。馬。と。那。首。へ。乘。走。り。て。是。等。は。美。と  
老。侯。の。使。と。い。ふ。必。件。の。兩。人。と。遣。され。と。疑。ひ。る。あ。の。美。い。と。正。達。て。各。意。見。と。述。り。義。成  
充。め。ん。満。面。と。い。ふ。火。成。回。と。多。く。點。頭。ぬ。い。て。汝。連。が。稟。奉。り。趣。一。個。と。し。我。意。不。稱。奉。り。の。御。向。我  
諺。薄。情。や。仁。を。他。郷。と。出。遣。り。と。大。人。の。ま。心。憂。思。食。不。け。ん。の。美。義。成。瀧。田。ま。あり。て



分説と云はれども。然るに今とて火急の所要と果素不便六郎と我名代と。今那黑赴はりて大  
 人陪話と云はり。照文と與四郎と俱と速かた来よの餘のる箇様々々。と息状の趣を詞意  
 追々吟吟と云はる。然るに瀧田のるんも遠く退出ける。今程不義成主の有り司を  
 退かてる内氏元貞むと身邊近く侍りう。伏姫神の靈驗威徳の大きぬらぬと稱讃し。或  
 むりうてみすけ。あられと。正と。明日の必殿臺より告らる。今程不義成主の有り司を  
 南弥六出来介が忠誠義侠と憐て事の吉凶思ひぬ。明日の必殿臺より告らる。今程不義成主の有り司を  
 専素藤誅伏の計議を旋々。今程不義成主の有り司を。老侯の仰と稟て姥雪與四郎共保  
 瀧田より来りける。その時えあり。今程不義成主の有り司を。老侯の仰と稟て姥雪與四郎共保  
 好折く不來ぬ。先十二郎と召べも。を依もぬけり。然るに強崎照文の近習も引れ。雨  
 室もわて見参不入。今程不義成主の有り司を。老侯の御座の向果て却  
 宜不。今程不義成主の有り司を。老侯の御座の向果て却  
 途を他は逢ざる。今程不義成主の有り司を。老侯の御座の向果て却

と。左まれ右もあれ。大人の仰の何事と云ふ。今程不義成主の有り司を。老侯の御座の向果て却  
 胸中と知召も。大人の仰の何事と云ふ。今程不義成主の有り司を。老侯の御座の向果て却  
 稻村もあれ。我推量不違。今程不義成主の有り司を。老侯の御座の向果て却  
 飛して。今程不義成主の有り司を。老侯の御座の向果て却  
 狹道里も。辰相と瀧田。遣り。今程不義成主の有り司を。老侯の御座の向果て却  
 多。大人の仰の何事と云ふ。今程不義成主の有り司を。老侯の御座の向果て却  
 然るに那舶来の鸚鵡の。今程不義成主の有り司を。老侯の御座の向果て却  
 高柏颯風。今程不義成主の有り司を。老侯の御座の向果て却



え とうふとら とうふとらめまへてまへ  
 王のうけの外見們を然る方物種々を献り。中不鸚鵡一隻あり。老侯のまわりの  
 軀て死便室の牖の柱に掛さる。年来畜せしむる件の鸚鵡今朝老侯の起出の貌を忽  
 然と聲を立ててや老侯の口を稲村殿の比大江親兵衛と遠離ゆ。死術を知りて今  
 御後悔大なる所以箇様々々任するゆゑ濱路姫上の御危難神女の擁護又那妖  
 書の事をもその崖略と告まると親兵衛并七犬士們を召さる死使を照文與四郎優者  
 中と那里も評議ありて死使を遣はす。開き寺の時移りて今日の役更達をさる。さる件  
 西人の稲村遣され必る疑ひありて諄復し、稟まらば老侯驚愕評りて單に胸裏と思  
 る。昔唐山晋の時張華が毒白鸚鵡の主人不悪夢の凶兆を報て免るるとの事文  
 後集の本文あり。又唐の天寶年間長安多豪民楊崇義が妻劉氏の鄰舎兒を疎く、李弁  
 と密通ありて俱ふ計りて山宗義を殺し、酒井の中埋め、知むるに訴けり是より檢吏の  
 家未だ仔細を糾明未だ折崇義を告げ、鸚鵡あり有司に向ひ聲を立て崇義を殺す。惡棍の

りある。劉氏と李弁と云ふ聲分明に奸夫淫婦の免る路々の罪立地中發覺れて、軀て刑戮せられ  
 けり。時の天子を宗帝の件の鸚鵡を賞て封て緑衣使者とありて載て天寶送事あり然  
 ければ今の鸚鵡の僅か他鳥の聲と做す。人の言語も一兩言の過るが如き疑ひ  
 べとら宋明の人の小説に記着するも有といへば是等鳥の神あり然他一鸚鵡と一列論すも  
 あり。然る唐山の例に準じて今我鸚鵡の奇談と思ふ。是等鳥の心く、いふ中をさる。伏  
 姫の神ありて方々あり。意衷不猜あるゆゑ、毫も疑ひなきと。臣と與四郎とを聯し、召  
 さるゆゑ前條と然るに、若し速不行装の準備して稲村へ走らば、守の殿も景景  
 さん小あのみ果して驗あり、物種ありともあり。快々せよといふ、仰畏ま言表す。小臣  
 并小與四郎の驚奇感嘆辨り、時と程に準備して目今來着候。尊意を伺ひ、  
 れの君候も件の御準備あり、辰相より、老侯に稟させ、奇異妙絶恐れ入り、一五十一を



つひまう。告稟其側聞其氏元貞仍俱不奇談。駭然方。中。義成主。憶。額。加。て。鳴。平。奇。る。る。妙。る。か。鶴。鶴。の。奇。言。の。我。大。人。の。御。明。查。錯。ひ。る。女。兄。の。君。の。神。靈。の。神。謀。不。え。わ。ん。ま。る。め。現。神。通。の。元。量。の。異。中。民。の。童。女。化。現。と。賊。徒。征。伐。の。緩。急。の。理。を。示。さ。せ。更。か。又。疾。風。も。と。躬。方。の。刀。槍。見。不。真。助。の。施。昨夜。又。明。々。地。の。神。體。と。頭。と。濱。路。を。極。ひ。て。女。僧。妙。椿。を。懲。り。あ。り。の。ま。を。義。成。の。妖。賊。を。感。さ。れ。る。術。と。論。さ。の。り。と。上。親。兵。衛。の。童。年。を。似。は。る。大。人。の。類。あ。り。の。史。書。を。援。て。世。の。疑。ひ。を。解。は。り。論。辯。廣。博。最。有。名。を。示。現。身。の。今。朝。又。瀧。田。多。鶴。鶴。は。憑。心。て。我。意。衷。と。寺。も。大。人。の。告。言。を。あ。り。の。計。ひ。の。妙。あ。る。大。人。の。夢。想。入。て。悠。々。と。告。の。ひ。の。疑。ひ。を。ま。ん。を。朦。朧。を。現。身。の。鳥。と。り。あ。り。大。人。の。意。も。疑。ひ。を。快。照。文。と。與。四。郎。を。遠。方。遣。い。あ。ま。り。事。立。地。の。合。期。と。料。を。も。這。便。宜。と。下。濱。路。并。不。妖。書。其。の。さ。え。既。不。知。召。さ。ぬ。照。文。們。の。少。知。く。ん。然。今。中。告。言。を。要。す。先。と。與。四。郎。を。召。す。と。近。江。自。ら。あ。る。と。治。さ。る。遠。侍。の。ゆ。り。る。與。四。郎。近。江。自。ら。引。れ。を。く。義。成。主。の。死。面。前。ま。あ。り。せ。義。成。主。の。南。と。

よ。與。四。郎。近。江。找。ね。當。我。思。い。浅。く。大。江。親。兵。衛。と。遠。離。る。実。無。此。上。謬。り。因。て。召。か。さ。ん。と。欲。を。开。使。介。の。十二。郎。と。汝。の。優。の。を。ま。り。瀧。田。辰。相。と。あ。り。奇。の。鶴。鶴。の。忠。告。あ。り。大。人。の。も。も。汝。達。の。這。方。遣。い。の。特。便。宜。の。死。計。を。添。く。を。思。ひ。も。左。右。も。右。も。十二。郎。と。商。量。と。快。起。の。路。費。の。の。野。兵。們。を。伴。當。と。七。遣。い。を。單。親。兵。衛。の。も。の。餘。の。大。士。も。亦。遇。は。れ。我。意。を。傳。へ。俱。と。來。よ。を。ま。の。義。と。あ。り。と。の。親。を。仰。せ。與。四。郎。額。衝。を。頭。と。拾。は。て。氏。元。と。貞。仍。ま。り。對。ひ。て。楯。向。の。最。も。惶。然。御。説。兼。り。な。り。女。衛。瀧。田。と。折。笹。崎。生。と。既。と。也。商。議。は。り。い。の。逆。知。召。れ。ん。下。総。市。河。は。是。親。兵。衛。故。郷。也。行。德。の。母。親。の。親。里。と。あ。り。は。れ。僕。の。虫。崎。生。と。路。を。と。り。那。里。不。赴。那。山。林。の。名。迹。と。あ。り。依。介。夫。婦。子。對。面。と。穿。柵。向。那。人。の。往。方。を。知。る。據。の。足。御。説。の。情。を。似。れ。る。伴。當。一。個。も。要。る。況。難。色。輕。卒。を。御。内。人。俱。と。い。は。る。影。護。く。て。倒。不。進。退。不。如。意。の。ゆ。り。の。許。さ。せ。あ。か。ま。ま。の。道。節。を。先。と。御。扶。持。の。下。の。召。置。を。身。の。本。意。を。な。る。音。音。も。俱。と。不。娘。の。ゆ。り。一。兩。葉。時。の。暇。を。賜。り。道。節。並。餘。の。大。士。們。の。在。外。を。



寄書いひてやと思ふ折々大江の腰子より仰よりて這地を在るをり一人傳ふ事知りし胸淡々  
 ともえうてあるのりともかいつとやうか、こゝろをいひし御用を擇んで延喜崎生と共に那八  
 犬の人々の迎ふの仰の趣定まらぬ造化の面目の上やいれぬの身單でゆる大江のゆるり、大士連お  
 逢へ必説薦め、俱さう還りのつとめ勇多、稟さるも氏元貞の有理と感とて、馳て執事をし義  
 成荒然とち笑ひて、他が情願定お餘多、夥兵を隷て遣えり、非常の與れを、亦亦不  
 便と思はれ強るの要を、隨意さる。却十一郎の甚麻を、おのふ就て瀧田を、乃ち仰りるり  
 次と問せぬ、照文答て然目今與四郎が稟せり、小臣、穂北多、水垣許、索定て、那里、大士  
 在るとのり、結城へ赴けり、君侯も聞召さる。大法師の宿願あり、奉り、其公、首多あり、嘉吉のむ  
 結城も陣段ある人々、並提を、吊か、與る春より、那地、庵を、締めて、大念佛、修行と、諒さる  
 べき。その月、十六日、那諸、霊位の亡日也、結願の、うまれ、その日、幸か、大士門、俱、結城、赴けり、  
 法蓮、會の、非除、來會せ、も、あれ、小臣の、御父子の、御名代を、奉り、十六日、結願、必法、會、預

るべ。と老侯の御説あり、御布施も儀の、多く、遣与、さる、御會、瘋め、伴當、持せ、  
 又老侯の宣ひ、始賢士と招き、墨印、我一署、這回、守の、殿の、御教書と、齋厨、と仰り、  
 稟せ、義成、點頭、定、義ある、仰、我、大士、招状、祖靈、香奠、  
 十六日、結願、餘、日、を、あ、これ、十一郎、今宵、水、先武、藏、を、赴、  
 與四郎、俱、首途、十一郎、十個、夥兵、外、東西、持、  
 是等の、旨、有司、候、事、の、準備、と、急、仰、大家、ある、果て、齊、退、り、  
 與四郎、御食膳、美酒、賜、權、且、伴當、の、揃、  
 隨即、氏元、貞、約、招状、と、香料、照文、遞、  
 路費、と、遞、  
 後、與四郎、固、辭、  
 長、日、影、敬、  
 下、晡、  
 小、程、  
 照文、  
 夥兵、  
 十名、  
 奴、隸、  
 五名、  
 及、  
 瀧田、  
 俱、  
 來、  
 私、



伴當と共に二十餘名の従者と領て與四郎と共に便宜の港口に赴き、当晚海船に執乘し、武藏の千住に投て走れ、與四郎は纒一個の伴當を従へて別船に乗り、下總の市河とて、水船に乗り、程辰相の瀧田より来て、義成主は徳々と返命を言上し、既、鷓鴣の奇談を、這方の事を那里に知られ、照文と與四郎を遣され、後、又、此の事も、君侯の死を、みづから、親、衛、を、二條、老侯の御本意、稱せ、其、秋、大、因、南、弥、六、出来、介、任、使、義、烈、の、支、の、趣、鷓、鴣、の、告、も、漏、せ、と、云、云、と、言、え、は、あ、老、侯、御、感、淺、く、諸、第、恩、顧、の、者、も、彼、他、們、も、守、の、與、命、を、惜、ま、義、勇、の、併、守、の、殿、の、士、愛、一、民、と、拊、躬、に、慈、致、主、所、を、死、致、の、よ、と、告、宗、ま、か、義、成、も、亦、致、ひ、あ、公、子、賢、明、の、死、相、譚、と、傳、の、稱、讚、と、感、憑、く、思、ひ、け、り、徳、而、の、次、の、日、の、黄、氏、時、侯、の、殿、喜、雲、陣、中、より、其、川、清、澄、が、使、者、と、詰、茂、佳、橋、の、一、騎、稻、村、の、城、に、着、到、し、其、磯、南、弥、六、安、西、出、来、介、が、素、藤、と、刺、ん、を、敵、城、へ、入、て、戦、殺、の、事、の、顛、末、且、南、弥、六、怨、魂、の、首、級、を、任、り、て、梟、首、を、及、け、り、是、故、小

館山の牢獄司が、梟首と梟一、清澄の妾を、少、知、り、と、急、に、士、卒、を、遣、り、て、出、来、介、首、級、を、奪、捕、せ、且、敵、の、雜、兵、一、名、を、生、拘、り、て、其、の、仔、細、を、責、問、ひ、南、弥、六、出、来、介、勇、戦、の、為、体、も、具、に、素、藤、の、癩、を、肩、に、懸、れ、士、卒、數、を、亦、那、牢、獄、司、が、南、弥、六、の、首、級、を、用、ひ、南、弥、六、を、殺、れ、賊、徒、名、幕、沙、雁、太、の、首、級、を、取、り、け、れ、一、笑、を、堪、え、り、然、れ、出、来、介、送、書、を、志、の、程、も、知、れ、忠、義、分、明、の、首、級、近、江、山、院、に、葬、り、て、異、日、其、墓、を、建、て、又、滿、呂、復、五、郎、以、下、の、刀、磨、見、の、久、く、癩、を、者、五、六、名、に、將、息、の、與、大、城、内、に、一、置、き、欲、ま、す、皆、横、轡、を、兼、せ、れ、明、日、來、着、付、ん、先、件、の、趣、を、言、え、あ、の、馬、を、走、り、い、は、れ、と、清、澄、高、宗、逸、友、們、の、連、署、の、目、主、書、を、も、り、け、れ、有、司、に、受、け、て、三、家、老、に、告、知、せ、當、晚、披、露、を、及、び、け、り、徳、而、の、次、の、日、復、五、郎、と、首、と、て、刀、磨、見、も、來、れ、各、宿、所、に、一、居、り、て、醫、師、を、命、じ、て、某、を、賜、り、又、滿、呂、復、五、郎、は、南、弥、六、出、来、介、の、見、子、を、殺、れ、各、親、族、の、あ、ま、り、問、せ、た、ま、南、弥、六、を、妻、も、多、く、子、も、あ、り、獨、阿、弥、十、と、喚、做、き、南、弥、六、が、第、一、上、總、を、蘇、々、利、の、農、戶、へ、件、の、阿、弥、十、兩、個、の、見、子、を、家、子、と、阿、弥、太、郎、次、と、増、松、と、喚、做、さ、る、俱、小、尚



總角又出来介が妻の世に去て成之介と喚做を獨子あり。今茲十二三の件の成之介が亡母の叔父の  
 上總國夷瀨郡山田村の程遠く折塚の引梅寺の住持多とて。出来介則成之介とて。昔  
 讀書の爲に年七八の比の件の寺に預け置けり。その折復五郎が義成具らち  
 ぬて南弥六出来介が忠義の死せし報を成之介も人の及ぶ所にて。戰場の陣致し不慮に異  
 日賞を授けり。親族の居所姓名を漏れし記し留めんと有司の命に依りて又清  
 澄の妖書の及神女の威力の女僧妙椿の懲らる。那夜女の支の趣又南弥六が遺書の及  
 老侯の妾世多の鶏鷓の奇談あり。是茶より親兵衛八犬士と召さるる人爲の昭文と與四郎  
 免使と仰付られて遣りし事の由佳橘の仰示さして親兵衛が帰参するまで屯固く成り  
 那宵守とる忘れとる下知状を賜りければ佳橘の隨即稻村の城を辭去て亦復馬を奪め殿堂  
 へ送還りける。話の面頭介程大江親兵衛の那日大母妙真の辭別れ折件も馬も途より還  
 る。單港口の船に兵の船も乗て漕走らせし通宵順風之れは次の日朝日昇り時侯とす

市河の末まければ船を以て船を還りて親の名蹟とゆえ。依介夫婦の宿所を尋ねて名告とす  
 對面を依介水邊の身日妙真が消息とて親兵衛が信と告られぬ。依介の思ふ  
 見えれば増穂の芒草色つまで長伸て大備言胆と渡して呆れて一霎時長視とて親  
 兵衛の亦亡親の住り宅かう来てお然と立ち。昔の櫓の袖に露けた懐舊の涙を拭ひ  
 向うて心もよく立在し依介水邊に稍定て遠く立迎へ思ひも現和子とせし先達方  
 へと立立て帰合るも精悍く船荷の塵埃掃き上坐請升れ親兵衛の揖讓とて野袴の結  
 掖下し刀を解て坐せられ依介水邊と俱茶と薦めり。茶額と櫓で山々の秋とて舒々  
 ぬる。身日妙真の消息を賜りて告まあり。身の高運伏姫神の真助とて六松富山生首  
 の心術と身長と大備言と夢見る。奇話珍説とて驚愕もあ。飲み酒もあ。倍々  
 御成長と名告のむ。知る下り。安房の村に訪ひし。思ひに日毎船荷の多  
 かれ。今果て倒訪れし。本意を水邊の御親族の季を。初見参りの。飲み酒もあ。



志とていれて水濱の額つる膝と找め共侶のいと丁寧小慰める人の誠の親兵衛も亦外を忠地して固  
 坐程よく相譚へ依介の又過去と只顧ふに於て那舵九郎が暴虐に折受る眉間の舊瘻の痕と示し  
 神の加護年増御再會の果れとしくと徳意なる届く板厨の雲錦を錦添に花丹楓果すと  
 薦め慶賀の盃と快勸んとて立まかせと親兵衛の遽に推禁めや阿叟を愛は且窓に今とそ意と  
 多る取管待の後御食人今日の地方立より私の旅行する君命は依るもの然と去向をせし一両  
 日中止宿せん御母の消息を夢知れるともあるべし我身より因因果の七犬士は先とて君侯御父子見  
 参りなり聊武功ありといふ故ありや首尾妙なるも自餘の犬士の在処と尋て送る都て俱に未よ  
 と約に坂東八ヶ園と遊歴の暇と賜り萬里の旅客をさるるは幾れ幾時を涯とも量知れぬ旅の相  
 主夫婦と對面する親の御墓と拜んと思ふより立寄り先其墓参りてほれ墓所へ案内と頼め  
 と諭す水濱の水をて漱に家廟と向之父母の木主焼香をその間依介の衣脱更々背門傍を  
 離色の楊楹花折合ても程も親兵衛が備を貸草履あり憚りぬとて杖は足が牙の

出ても悠而大江親兵衛の宿所を考と遠く二親の墓所小あられ依介の水と汲と携る花と立て  
 卒と備小跪坐る房八沼菡が死せ比に世の憚の多れ墓表と建ざり小介後の許我の御所より信  
 のつふさささささささささささささささささささささささささささささささささささささささ  
 乃と追捕の沙汰もせそ舵九郎が伏家の光棍の祟と怖他御走り後安くより八房八沼菡の  
 一周忌の墓碑と依介が造立て義侠夫妻之墓との六大字と勒とありその折と之回忌建都婆  
 舊これも不朽もせそ依る親兵衛のつくと見り跪合堂と念誦の時の程と覺を追慕の涙  
 胸に盈て哀悼悲泣堪ざりと思ひく念下果てや身と起せ頭小障る樹の枝ありを六稔前  
 大塚信乃が実裁と考ると豫言そ那八房の梅おどりける親兵衛の木の樹の夕日暮る富山在り  
 日伏姫神の生口ありと知る小あられも思ひより大なるりて枝條の四方小栄える弱樹を屈  
 曲して蟠龍に似る勢あり折る夏の盃を結ひる実の青や中八房をよめ依介を  
 指さすあの梅は生かすより五稔許するらるる今茲摩訶花さきく枝小麗る実の異れを里人  
 稱て八房の梅と喚做いと告ふ親兵衛もそとる向と上て點頭くの現犬と梅八房ありとをうち



轉其親の名の房八と名詮自性と思ふも不嫁一も東弓春の過けり花の根不我の昔葉かたれども  
 返ぬ親の昔本り裁の友もあむ心の憂ひ帝に難て塵の交る塵の世や難の果一も然而在るべ  
 況ふの所れ又依介を先立立て香華院へ参詣去五七町の程ゆて寺の事ゆれば祖先の昔本花と  
 向て方丈の卦を名簿と出布施とまわされ住持軀て對面て十念と授らる布施の言依りてるは  
 茶と呼び果子と薦めて似ける俗談せらる親兵衛の困り果て依介を目と注しやうなく小辭一去て大江屋  
 へかゝる水濁の準備の酒餚と羞めて良人と共侶の曾待初の弥増けり介程は這市河の里人們を  
 幾の程あつ知れば大八の真平が神願の遇ひも既六輪の光陰を歴ての身日小還せらる今九歳の  
 童多の身長猛可大長そらで文学武藝のへりて萬夏成就て神々亮神童と稱れて權且安房の  
 稲村に在り親の上境とせえふけりもかゝる事ゆけりと話續ゆりて傳る狭田舎の事ゆれば一柳  
 を知りたる次日の朝も四五名連署者ある鐘を贈り海鮮を贈り或果子と煎茶とを贈るも  
 是良賤老弱陸續と成大江屋詣来々然と演對面と請ふ者幾百人もぞ知るも中も小文才あは

閑見の伊呂波韻と操毛煉まで幾遍と線返り辛毫並子る五七言の單仄を整き詩の長良様  
 との悪筆の可憐唐紙寫やせと懐中表寄るも又とそれれも介遠波の知所諷咏の  
 像易之雅言俗語の敷雜多三十一字と着も世最美麗の高檀筆勢折る釘の像  
 姿を傲然とく遺るもあけり是より親兵衛の依介と商量り餅十五斛搗煉と一御送る餽遣  
 去又東西贈られる酬答その人々を宿所へ招けて置酒と一日遊を用は且大江屋の船工們も折酒を  
 飲けり傳る雜費の親兵衛が携る盤纏と以て刺主人依介も金五兩を取せと依介數言推返と  
 云云と推辞めも親兵衛听せ理と盡て薦め水濁の邊與け介程親兵衛の昔里人小應願せ  
 られて逗留數日と及びも猛可依介別を告て先妙徳の方へも立去くと欲せと依介水濁も推禁  
 せ放ち遣るもあはれ親兵衛徐論して錦と被て故郷還る介是人の面目も我身正  
 ち里見殿に仕て重任大祿の栄ゆてかゝる事ゆれば只是孤客も同因果も義兄弟七太士の在処を  
 索とす君の仰と指示する昔里人を尋得申すと這地方小目と強くも忠告を言はる介も









八尺專七郎

廿八

大...



八尺...

三十九作



鯉佐太郎孝嗣と喚做する竹歳計の後生と豫より風聲あり那人の父を權佐守如主の奥家老で  
 依りて上様解目御前の御意を以て新参者伊人龍山縁連を敷きんと大坂毛野亂智を喚做する智勇  
 勝れ後生と痛くお那縁連大坂の親の冤家でもければ商議即座を整ひて春正月某の日縁  
 連并小阿黨の甲乙相摸る北條家へ和議の使を赴く折鈴茂林の頭老犬坂元を俟着て縁連王  
 僕と副使者鯉崎猛虎們を敷き捕する所の餘越杉駱三二峯電門鍋介既済と喚做する奸黨主  
 僕ハ消々地ハ毛野の助劍ある大田大川より来る勇士が為敷れけり。その事々も五十子の城  
 内におるが管領酷く怒せしめさるる毛野と追捕の為隊兵三百餘名をおく其舊地ありし  
 の鈴茂林の浦邊より煉馬の殘黨大山道節忠與と云猛者同盟の義兄弟大飼犬村の  
 西勇士二隊はこれ埋伏あるその隊の猛卒七八十名猛可起りて前後より挾きて攻敷り大  
 風當るるもあつるが管領方の乱謀にて敷る者甚くは死大將の辛あつて三四個の近目自俱  
 敵の圍を投脱て五十子と投て走りぬを道節透き趕蒐て克奪て敷る前管領様の頭と射

られて頭鎧ハ矢場お落れも幸ひなく裏と缺き是這里を後兵四名の内中兩個の道即敷られ  
 けり。小程五十子の城内におるもさるる上様驚に敷きせめて救ふ縁連を除んとせ  
 故ハ毛野より事と洩して那道節に告るは然しそあれ思ひける剛敵途起りし。諸を危  
 窮お及せぬ始と推其毛と吹て倒れ病と求むる技術と争何のせん君おれをせ支るるぬ亦心なる  
 後ハ知らせまらぬと自らと亡のいと。然し河鯉權佐守如主の神多るぬ身的事は仔細を  
 知りしければ毛野と怒る腹極断る臨終に獨子ける佐太郎孝嗣を送言し君先途とんを  
 極むるも克く館の馬前を戰殺せんと勵む折々大山們が義兄弟大塚信乃が詭計を  
 ても隊兵絶つ二十名俱く城内お紛れて火を放ちて攻められ城の果敢る陥されて城兵も敷られ  
 けり。徳平程の管領様の又高殿の頭老犬飼犬村西勇士最も稠く追逼る近臣の皆敷られ  
 残る大將の馬を圍の鳥巢馳寄せ腹と断るも程の河鯉孝嗣主の父の亡骸を轎子  
 昇りて走りまおける。三千名許の士卒とて主君の危窮を極むる。隊兵を分けて忍田の城へ平



そのまじりたる兵を、さし入て死す。必死の覚期を、大飼大村兩雄に感して左右を  
其身の些の残兵に従て、小川と隔て敵を俟た。必死の覚期を、大飼大村兩雄に感して左右を  
敵も蒐らば折る道節の首を、大坂大川大田門を料を、遠果取合ふ。折毛野と道節  
と現、大角の四天六、初對面の口誼あり。孝嗣を、原來毛野と道節の始より謀合を、館を  
狙撃す。心猜疑ひ解て、毛野を恨むるが、却已に、あつたれ。各告被け敵を招はく。  
勝負を決せし勇、道節の感嘆して、敢亦又交す。毛野共、侶找を對ひて、問答數回不及、  
道節分捕る馬を、孝嗣返さず。孝嗣馳て、踏て一箭射て相別れる。折の進止、寔愛に  
武者態より、敵多し。大士達、只顧感と、己を知る者、詰、徳而河鯉、孝嗣主、忍岡の城に赴  
て、主君を見参し、蟹目御前も、父守如も、自殺せし、趣、多、又毛野、道節と謀合を、君侯を  
犯さず、あつたれ。その故、箇様々と對陣の折、洩せ、毛野道節、初對面の口誼、事、證して  
上様の、兇愆を、恩事由、稟、解、詳、管領、昨、非、悟、覺、御、後、悔、大、其、  
詰朝、孝嗣、主、五十子、赴、昨日、大山、濱、邊、鼻、主君の、身、鎧、令、卸、馳、五十子の、城、

入て敵の退るより、躬方の残兵四、守各却、忍岡の城より、本、頭、鎧、返、且、五十子、  
体、及、信、乃、道、節、白、壁、書、送、る、文、言、と、徳、々、々、誦、と、恥、辱、縁、連、君、  
邪智、奸、佞、起、ま、り、解、諦、一、言、も、管、領、之、恥、を、受、て、孝、嗣、の、忠、孝、賞、め、  
領、賜、り、身、邊、近、く、召、使、れ、功、と、媚、と、榮、と、羨、む、侮、人、の、欺、を、折、觸、  
け、れ、管、領、亦、復、感、え、れ、然、も、二、代、の、忠、臣、情、地、疑、い、遂、外、様、退、  
彼、心、固、る、城、内、里、れ、孝、嗣、の、群、小、の、語、と、怕、る、病、病、假、托、  
ら、尚、飽、中、央、縁、連、と、親、り、由、り、折、を、竜、山、の、與、怨、復、  
る、偽、書、と、為、て、河、鯉、佐、太、郎、孝、嗣、へ、毛、野、道、節、内、心、  
密、謀、徳、々、と、件、の、偽、書、と、披、露、せ、管、領、怒、り、有、司、命、  
然、も、毛、野、道、節、在、処、向、呵、責、申、わ、れ、れ、素、より、冤、枉、  
り、忍、岡、守、城、の、頭、人、根、角、谷、中、二、鹿、麻、奉、り、日、毎、拷、問、  
手



蘭二穴栗專作出役。然ればも孝嗣主の毫も屈せ死を極め。冤枉のよと叫ぶの。力ふ  
 身よりもろり。山谷中。一取は蘭二相討。て那人の首伏の條々。と供造。毛野道。即門の孝嗣。が擗  
 と。捕られし。ぞ知ての。深く駛れけ。今。うち。照驗ひ。ま。と。乃。ゆ。ま。あ。は。し。孝。嗣。主。の。竟。死  
 刑。不。處。られ。今日。未。下。刻。前。面。岡。牽。出。され。て。首。と。剣。や。と。や。え。ま。り。そ。實。檢。使。と。根。角。生。大。刀  
 命。あ。穴。栗。生。か。五。十。子。より。出。役。を。逆。件。の。風。聲。あり。方。僅。衆。人。の。物。見。んと。走。り。あ。た。へ。外。倉  
 命。今。好。人。の。般。々。と。憐。み。は。せ。樂。い。は。薄。情。り。ける。人心。益。る。所。為。で。は。る。と。と。り。う。外。面。瞻  
 仰。て。長。谷。目。を。は。か。り。な。る。未。の。中。刻。ふ。り。ま。り。噫。鈍。や。長。物。語。耳。咻。思。れ。ば。茶。釜。沸。湯  
 不。又。一。碗。ま。ぬ。せん。飲。と。茶。碗。を。合。て。汲。ま。せ。親。兵。衛。の。遠。く。呼。林。禁。め。て。不。言。ぬ。ね。茶。の  
 欲。か。も。現。阿。懷。の。物。や。ら。し。我。疑。以。釋。け。これ。も。忠。臣。孝。子。の。証。られ。罪。を。ぬ。罪。不。身。を。殺。さ。し  
 宿。世。心。麻。さ。る。心。報。を。も。悠。々。り。不。平。の。事。を。る。切。て。い。其。果。赴。は。て。外。倉。そ。の。人。の。面。影。を。く。り。も  
 不。ま。く。不。向。岡。那。里。を。と。向。へ。答。ふ。件。の。岡。不。忍。の。池。の。畔。と。左。五。六。町。先。の。前。面。連。り。る

岡。ゆ。の。這。里。と。距。を。遠。く。七。八。町。ゆ。ば。り。ん。が。と。云。を。親。兵。衛。守。あ。ま。原。來。同。名。異。地。を。久。我。夢  
 く。武。藏。の。向。岡。即。故。名。所。を。開。國。府。の。南。方。玉。川。を。隔。る。數。里。連。れる。岡。と。て。向。岡。と。喚  
 ぶ。され。せん。え。あ。み。は。た。め。の。あ。せん。いと。ま。る。い。て。む。ひ。あ。り。り。と。あ。け。さ。た。と。ま。り。と。ま。り  
 做。され。然。れ。萬。葉。集。多。柿。本。朝。臣。入。磨。の。歌。出。目。る。向。の。岡。の。本。般。茶。の。用。は。花。の。成。る。と。半。と  
 む。と。よ。も。る。も。又。新。勅。撰。集。小。野。小。町。の。歌。ふ。武。藏。野。の。向。の。岡。の。草。さ。れ。根。と。て。ひ。ま。り。と。ま。り  
 思。ふ。と。詠。する。も。俱。不。忍。岡。の。さ。あ。む。む。素。も。是。國。府。近。近。岡。も。り。先。哲。の。考。證。あり。然。る。と。て。這  
 頭。も。同。名。の。岡。あ。り。ゆ。ゆ。知。し。土。人。の。私。稱。小。と。詰。れ。ば。老。媪。の。點。頭。で。言。事。す。り。言。定。み。以。ち。向  
 岡。の。這。頭。と。あ。ね。と。忍。岡。を。喚。更。て。前。面。岡。と。名。者。あり。又。不。忍。の。池。の。西。の。本。御。續。る。岡。を。前。面  
 岡。と。喚。做。ま。も。土。俗。の。私。稱。也。取。る。ま。足。さ。ぬ。さ。ぬ。を。か。ら。喚。ぶ。れ。も。久。く。り。ぬ。今。あ。り。外。倉。を。改。め。り。ち  
 柳。入。入。の。御。不。後。小。の。世。の。常。言。も。ゆ。る。志。因。て。俗。稱。不。儘。され。ば。尋。常。の。目。か。て。便。利。な。ら。ぬ。と。い  
 是。く。吻。々。と。う。ち。え。へ。親。兵。衛。も。う。ち。合。笑。て。現。は。れ。る。理。あり。然。れ。ば。酒。家。も。前。面。岡。快。約。と。て  
 腰。纏。より。錢。と。出。り。茶。價。と。遠。く。菅。笠。合。て。遠。く。茶。店。と。出。り。程。小。肚。裏。を。思。ふ。さ。ら。う。



奇。那老嫗が物のいさま。民間微賤の者不似ぞ。甚麼ある人の果やらん。是ま。心憎。河鯉親  
 子のい。我身富山在り。時伏姫神の生きを。最詳。今又老嫗が。野這  
 那符節と合き像。器具にて。一室も漏さ。他。城内の機密を。探ゆ。故。亦奇。左も右も。那孝嗣。是忠孝の士。道節も。相憐。切。首級。奪奪。便り。宜。證。佛。場。葬  
 是。武士の好意。徒。已。思。足。早。打。出。の。前。面。固。不。死。既。刑。罰。の。折。と  
 年。二。十。許。後。生。の。百。日。月。額。の。迹。伸。て。黒。炭。が。背。に。結。紐。布。皮。の。上。に。此。是  
 孝。嗣。又。実。檢。使。と。え。る。武。士。の。紺。純。子。の。皂。天。鷲。鳥。絨。の。下。縁。の。野。袴。野。朋。為。羅。紗。の。戰  
 外。套。と。ち。披。り。て。朱。鞆。の。両。力。苛。め。く。登。見。不。尻。と。根。角。谷。中。二。麗。廣。る。又。年。三。十。有  
 餘。一。個。の。武。士。の。袴。の。半。分。隠。り。高。股。裁。と。合。さ。る。葱。白。の。太。江。緋。紐。の。様。不。臂。と。頭。と  
 殺。柄。被。さ。一。口。の。刀。と。尾。り。と。抜。持。り。罪。人。の。後。方。跪。坐。る。那。元。栗。專。作。と。名。を。雜。兵。數。十

名。或。桿。棒。と。衝。鳴。し。て。現。ん。と。近。つ。衆。人。と。追。拂。ひ。或。鎗。鍔。又。と。推。立。持。て。整。存。と。て。守  
 護。を。事。の。為。体。五。道。の。真。官。餓。鬼。と。屠。り。夷。狄。の。庖。厨。と。豚。兒。と。解。く。も。恁。や。わ。ん。と。思。ふ  
 心。の。不。潔。と。亦。嚴。重。後。の。高。院。固。し。と。招。く。も。高。院。道。芒。草。の。劍。の。山。嶽。と。疑。れ。前。不。忍。の。池。に。て  
 紅。蓮。の。芙蓉。の。葉。を。用。ひ。正。是。人。向。榮。枯。黍。一。炊。子。息。絶。れ。萬。支。休。去。仰。せ。冤。と。叫。ぶ。も。自。天。答。を  
 幽。鬼。今。夜。誰。が。家。を。落。ん。信。を。哀。れ。を。知。る。貌。今。孝。嗣。が。數。と。現。ん。と。聚。合。一。里。人。趕。散。す  
 れ。又。聚。合。引。板。の。鳴。子。の。群。雀。囀。り。あ。と。樹。を。登。り。て。遙。く。觀。る。も。孝。嗣。の。恁。り。程。親。兵。衛  
 圖。の。邊。を。と。敏。光。樹。蔭。と。便。り。不。道。で。人。不。知。れ。を。闕。窺。る。登。時。根。角。谷。中。に。孝。嗣。の。對。ひ。て  
 河。鯉。佐。太。郎。兼。れ。若。父。權。佐。守。如。の。當。家。恩。顧。の。老。黨。で。あ。る。煉。馬。の。殘。黨。大。山。道。節。并。大  
 阪。毛。野。們。通。同。と。出。頭。せ。る。良。臣。を。龍。山。免。太。夫。縁。連。們。を。担。敷。と。七。地。條。家。の。和。謀。と。破。り。刺  
 君。候。と。危。く。と。五。十。子。の。大。城。大。塚。傳。乃。と。引。入。れ。折。守。如。が。奸。詐。密。謀。と。く。發。覺。れ。ん。と。せ。し。怖。と。く  
 那。身。の。自。滅。と。し。け。り。と。その。子。孝。嗣。偽。り。て。忠。死。の。よ。う。小。栗。做。り。て。君。と。恁。り。も。更。小。又。毛。野。道。節。們。と



折々密書をかりり。五十子忍國の両城を攻畧せんと相謀る。虎狼の野心大辟不赦九族越々數々  
 盡して誅せらるべし者なれども母は長女世と去りて兄弟姉妹もあられづれば先祖の忠勤を思食て罪一  
 人お止れ目今斬首せらる者也御誑辱く美なりて又受よとの渡も孝嗣所々嘆嘆しく現  
 象日一金を鑠去忠義を誣て謀叛といひ奸佞を稱て良臣との秋緑衣黃裳を賤し冠履を  
 異し天地反覆を然らば位子昏誅せられて兵王亡びに泥蟻去て大夫種罪をゆるるの期及びて  
 何ぞの屍野荊を肥をも宛意必天雷を多て誑臣を敷殺し思ひ知らぬといひも果は合中  
 二怒れる聲ぬり立て益の諄言誰くせん疾々首を刎と劇に指揮か元栗專作兼りぬ身を  
 起して孝嗣の項の後毛を兩三遍拊揚る念佛せよと聲をりて夏を寒く水做と又鬼りと振抗  
 る程もあはれ一個の武士曾看野袴刀不草鞋淺茶の三尺帯の締目長に逆旅の打粉湯場の方より  
 忽然と飛が似く走り来り間近くを隨ふ越後方言の聲高やうやう管領家の人々も酒家の  
 腹大口自の死伴當栗鷹駿平の深と喚做と者老夫人の御意をりては合中首を一垂垂時又と

止むと肩を抗り喚うけし思ひくはあはれむれは驚え託る谷中二專作庖丁走は河鯉の頭をの敷を  
 投頭と思念暇するけり既り栗鷹駿平の走も走着一合中二軀を發見と放と遠く立迎へ  
 御邊へ越の老夫人の死伴當は左下則肩谷殿の御内也忍國の城守護の頭人管領家の御誑  
 ようて逆臣河鯉佐太郎孝嗣を刑罰の為出役ある根角谷中二麗麻でい越の老夫人へ何もの致は  
 通々の御参向逆を御沙汰もせむと桃を御旅のあらゆきといひと駿平うち呼て御不審重是  
 理のまが死體朱の婦人々と徳猛可き御旅行の所以多くてはははの老夫人の見参の折疑  
 鮮とと詞のまを託らむ徐りと老身夫人の先伴是甚麼を打扮を但見る第一番の排列の鐵炮  
 弓四十名次長尾の家の花號と緋の油簾小縫落をる一對挾箱次小程と緋の重袴拭る眉矢  
 刀と持る者次小歩兵二十名却と次夫人の轎子左右小従老黨若黨齊々々と二十許名皆行装衣  
 華也陣笠野袴掩膊脛衣列と正と守護ある次雑色數十名殿師の轎子茶辦當伴の女  
 房の轎子也十挺あまの續はる是より下騎馬の老黨伴鎗陪伴雨衣簾の爲適ふくはとて



婦人似ゆる武備嚴重觀と驚く可く却説大刀自の轎子の既近く來身程の駿平馳て走還て  
 轎子漆の花雲赤谷中二が姓名を餘の事をも簡様々々と穿え上げ大刀自をうらなひ且先伴と住上と  
 下知と又駿平とあるゆゑに轎子の昇居させ程の伴當の整と立され行儀と左右二側不  
 星列と登時兼鷹駿平の又谷中二が身邊遠造りて根角生老夫人の對面せしむる轎子と建られ  
 たり快々といふが如く谷中二阿と心得て走と轎子近づくて芝生拜伏とければ大刀自の轎子の戸を開け  
 端然と谷中二ふち對して汝が根角谷中二より這回我身の任猛不東國へ發向ある所以原主筋を  
 扇谷家と我子景春が和談整ひる歡びまうえ為及亡女蟹目前の上壇せましく思ひ起せし草  
 枕旅宿累々たる程に奇の夢想不神の告め聲湯嶋の天満宮枕上を交りて蟹目前の傳  
 了權佐が獨息子河鯉佐太郎孝嗣が冤枉の罪に陥されて命危は事由最詳に告まざるは他  
 父守如く忠臣を聊事とせめて自殺せんと説臣の逆謀をも主君に感刺その  
 子孝嗣も親父より忠誠志あり後生も又奸黨が稟掎めて林檎數日及び本月の某日

あまの地帯で竟に死刑にせられんを在夫赴て孝嗣を救ふと正可示さぬと怒然とて  
 夢の覺醒并る路次とて今日も這地來身程に孝嗣と死刑の里巷の風聞果々違は  
 因て湯嶋の神社詣て這里來身は是より五十子の城に赴け管領へ左の右も宜くもうま做を  
 快孝嗣と放ちぬといつたの像輒も谷中二呆れ面色をそふ仰ていふ孝嗣が叛逆を大赦の  
 折でも數まがた大辟多しと御内縁より老夫人の御助命をも饒る者あり且佛の教  
 なるも果敢て事相喻て泡沫夢幻とらるる不憚りなき御夢想の神託の信を婦人の仁にゆき  
 とらざるも果敢て大刀自の聲苛立て黙れ藤原泡沫夢幻の譬諭ありとも神の示現と信仰と罪人の  
 死と赦ふと佞者の説と信容と可惜忠臣と誅まると其愚その害孰ぞ孝嗣素より罪の成然  
 のんや守如が何の為逆心ある能と媚む小人們が良臣の采と忌んで偽書と造りて謀書と披露  
 招了せざる首伏と吐作て罪と識り君命と借て私怨と棄さんふと大辟不赦の罪人必首を刎  
 りえの美の什麼と詰られて谷中二女とことばをそれとをり口訥りて黄髮と蝟と啞兒も似は成



孝とトウウハ 孝子ト云フハ 孝子ト云フハ 孝子ト云フハ  
 大刀自呵々と冷笑す。孝嗣が罪を犯し今解諦しく分明る事。又守如く忠誠を修め、逆心あり  
 とられて、鮮目前の貞実をも狗死する事。悪名も亦名一なり。孝子ト云フハ 孝子ト云フハ  
 雪あき、武門の母を申斐も、尚孝嗣と遞與さす。士卒下知、及文之、汝達と成敵を果しく、後  
 孝嗣と放ち遣さん然して否、汝達と成敵を果しく、後  
 五十子入と走とて館より告なり、放ちも放ちも、那裏下知、依りぬんと、大刀自呵と去五  
 十子まで二里、餘の路を往て還る使价を、我を在んぬ、其の髪を後、汝達と成敵を果しく、後  
 いづとも、汝達を罪せしむ、好も、汝達を身引受て計を、其頭不毫も遠慮せず、快孝嗣  
 遞與ぬが、速莫命へ惜も、否も、心も胸を定む、武士に似け、鈍事やと、寤られ、谷中  
 二一、毒時猶豫と請も、退き、専作們と密談と凝せ、豫歩知る、大刀自の男、鬼那強  
 情と、當坐の、鮮く、くも、今孝嗣と放ち遣さん、後罪を承るも、這里で戦殺す、其の優  
 毛、一、儘、孝嗣と遞與と、去五、十子、走、り、ま、り、て、休、々、と、言、え、あ、け、い、う、ふ、一、罪、を、免、す

秘もあり、是より外、術ありと商議を果て、谷中二故の処出て來り、亦復芝生を拜伏し、目今御の  
 趣と申し、申す、示し、い、い、い、餘、を、御、助、命、辞、を、承、り、因、て、孝、嗣、と、遞、與、し、ま、り、五、十、子、の  
 城へ光臨の折、在下們が罪を、ぬくと、館へ宣、宣、宣、と、諄復も、大刀自、听、々、微、笑、す、其、を  
 ら、あ、り、と、氣、つ、ひ、ま、駁、平、と、孝、嗣、が、索、と、鮮、と、受、合、ね、と、指、揮、し、駁、平、谷、中、二、卒、と、さ、り、お  
 推、立、し、俱、河、鯉、が、身、邊、迄、お、至、り、ぬ、登、時、根、角、谷、中、二、専、作、は、休、々、と、言、え、あ、け、い、う、ふ、一、罪、を、免、す  
 たる、索、と、鮮、捐、ま、り、駁、平、は、對、ひ、て、い、さ、す、御、助、命、推、辭、を、承、り、孝、嗣、と、遞、與、ま、り、其、れ、我、們、に  
 の、処、より、五、十、子、又、赴、て、と、館、へ、上、身、の、暇、を、賜、べ、し、去、向、を、言、は、れ、又、拜、謁、お、進、め、い、は、れ、の、言、宣  
 く、死、陪、補、と、漏、れ、し、る、事、の、重、作、は、目、と、注、し、先、出、役、の、夥、兵、們、を、刃、心、圍、の、城、へ、遣、し、其、の、身、の  
 伴、當、の、ま、り、却、專、作、と、共、侶、に、五、十、子、と、投、て、を、だ、け、り、休、而、兼、鷹、駁、平、の、孝、嗣、と、伴、て、大、刀、自、の、轡  
 子の、邊、に、馳、て、か、へ、る、谷、中、二、們、が、い、つ、り、と、言、え、あ、け、い、う、ふ、一、罪、を、免、す  
 自ら、听、て、孝、嗣、初、て、逢、ひ、の、愛、を、二、世、の、忠、臣、と、奸、黨、を、誣、れ、て、冤、枉、を、殺、す、と、い、ふ、左



中右中救ひかゝる越後(俱)とてかゝる尚管領家と盾と徳狭と思はれて和議も破れやん。捨つて  
 思ふとも是より永く別つて。望まぬ唐山の學に常言ふも良禽の樹を擇て栖と良臣君を擇て侍るを  
 思ふも。護弟とて暗主の與忠と盡して盡しぬ身。身を喪ふ思ふも。孰の里の身を立。後の榮と  
 望せんか。慰められて孝嗣の感涙。葉落るとかえさず。頭を拾ひて思ひ。身を再生の御恩。湯  
 嶋の臺より高く不刃の池も。為法が。孰の時少報い。今や短詔。般。身。大  
 自榮。否とよ汝が為の。權佐守如。鮮曾。前冊にて死。殉ひ。忠心の報や。思へ恩でも。一  
 説死と見るふ不刃の池の水草。放生會子の河鯉と活鯉。お做も。老涙の。親切の。論。備。な  
 駿平。拍。神。替の。面。刀。あ。ん。快。中。ね。の。を。せ。駿。平。の。阿。と。忘。て。一。霎。時。後。方。退。地。が。近。准。備。を。も。つ。黄  
 金表装の。面。刀。と。廣。葉。茶。う。ら。載。て。恭。く。と。來。お。け。登。時。大。刀。自。又。孝。嗣。ち。對。し。喃。佐。太。郎。今。も。う。浮。浪。の  
 身。も。武。士。の。け。ず。鐵。も。帶。ぎ。て。那。里。を。れ。ん。因。て。その。面。刀。と。取。る。も。然。が。そ。の。所。の。地。方。と。迷。く。ま。る。後  
 難。あ。ん。と。他。御。影。と。願。ね。當。今。東。國。の。良。將。の。里。見。親。子。の。優。き。が。安。房。上。總。を。究。竟。身。の。置

所多。れ。れ。上。や。の。免。と。思。ひ。と。教。諭。と。大。小。の。刀。と。取。取。ら。ず。れ。孝。嗣。左。右。の。受。戴。多。腰。帶。々。感  
 謝。不。堪。ね。吐。く。涙。と。共。額。衝。死。拜。て。又。恩。賜。の。飲。を。稟。し。頭。と。拾。は。け。四。下。を。れ。ば。多。く。什。麻。今。ま。在。り  
 つ。大。刀。自。主。從。騎。子。眉。尖。刀。挾。指。然。も。多。く。傍。當。又。忽。然。と。一。人。も。だ。え。ま。口。不。刃。池。の。畔。敲。水。鯉。の  
 聲。の。と。最。も。幽。々。せ。は。依。る。神。出。鬼。没。の。行。會。料。知。る。を。た。り。孝。嗣。酷。く。驚。は。呆。れて。忙。然。と。し。り。り。か  
 越。不。致。筆。て。心。に。見。れ。ば。帶。る。面。刀。の。屢。不。禁。獄。せ。れ。折。根。角。谷。中。に。捕。收。す。孝。嗣。が。佩。料。を。河。鯉。の。家。先。祖  
 相。傳。の。銳。刀。へ。原。來。大。刀。自。主。從。と。え。し。の。孤。狸。の。所。為。か。我。與。這。面。刀。の。情。々。地。小。捉。て。返。す。鉄。槍。然。も。あ。ら  
 湯。嶋。の。聖。朝。の。靈。驗。を。我。死。に。救。ふ。て。這。刀。も。復。さ。ぬ。我。を。救。ふ。を。我。は。左。右。の。思。ふ。も。思  
 い。難。き。奇。異。瑰。怪。尚。疑。ひ。鮮。き。り。と。侍。て。あ。る。時。宜。多。く。備。谷。中。に。迷。ひ。醒。て。路。も。急。か。り。あ。ら。い。か  
 多。く。免。る。が。然。つ。て。も。這。異。忍。固。の。城。と。距。る。と。甚。近。り。然。れ。も。身。纏。る。路。費。を。争。何。に。湯。嶋。の。社。參  
 詣。と。祈。ら。ま。り。思。ふ。も。稟。る。親。の。服。を。思。ふ。も。是。も。由。斐。き。且。淺。草。を。退。死。て。又。主。意。と。な。れ。備。諸  
 々。遠。く。裳。の。塵。を。拂。ひ。世。と。潛。る。身。も。不。刃。の。池。を。遠。り。て。正。坊。田。舎。上。野。の。方。へ。七。赴。は。け。今。程。大。江。親。衛。の







南總里見八犬傳第九輯卷之十二分卷下終

孝  
親  
兵  
衛  
と  
戦  
ふ  
の  
池  
の  
畔  
小  
野  
田  
孝  
嗣  
親  
兵  
衛  
と  
戦  
ふ



八犬傳乙耳卷上三下

北八

八犬傳乙耳卷上三下



八犬傳乙耳卷上三下

八犬傳乙耳卷上三下

孝  
嗣

孝  
嗣



八代傳刊の書林文溪堂也。教員言く言本輯中帙七冊の編述の作者甚哀其約束あり。大凡百  
 下旬まで送る綴りと取見を今茲乙未春二月六日。多々親渡れ。果と五月七日。至りて十一の巻第  
 百三回の二十四頁まで。稿本過半出来。筆工画工剛人のみ渡り。と之刊刻を急ぐ。次の日五月八日。朝翁の獨  
 子老翁の琴嶺先生の計。此のシキ。少くも長病着起。つらも。朝辰時。筆を易。告げられ。先生ハ  
 瀧澤氏詩。興繼字。宗伯。一稱。琴嶺守。忍庵と號し。又玉照堂と號。方伎。とて業と存。享年三十  
 八歳。五月十日。小右川若荷。谷清水山深光寺。浄土。先。市中。附葬。せ。法。王照堂君。與。風光。琴嶺  
 居士。と云。先生。稟性。尤。孝順。言。わ。老。実。を。言。う。鳴。乎。惜。幼。息。一。男。二。女。男。長。子。小。子。小。の。歳。餘。ハ  
 尚。い。ひ。多。る。け。翁。の。悲。愁。查。去。し。あ。い。度。不。拘。つ。て。未。成。稿。本。の。撰。り。と。龍。の。腮。の。あり。と。珠。の。似。を。え  
 心地。ま。け。る。事。の。障。り。足。の。ま。る。六。月。の。比。り。秋。公。拜。亦。恙。あり。僕。時。々。訪。尉。め。一。日。翁。の。云。う。老。て。不  
 幸。多。御。高。山。嶺。と。先。と。心。す。い。衰。へ。ば。背。局。腰。之。疼。ま。て。人。の。扶。助。不。起。居。と。ま。れ。ば。忌。の。幽  
 ても。尚。無。龍。て。朝。露。夕。糧。の。果。敢。る。を。觀。念。の。外。他。事。中。ね。も。坐。く。食。ハ。箱。中。空。現。病。着。の。せん。か。

多。る。苦。し。世。渡。り。多。故。心。の。憂。い。帝。天。王。常。の。死。り。て。幾。も。鉄。か。て。今。一。重。時。待。受。の  
 疼。痛。ま。か。て。送。り。巻。と。綴。り。抑。平。が。年。毎。編。る。冊。子。物。語。稿。本。を。備。訓。多。く。誤。脱。の。處。を。み。つ。つ  
 急。に。讀。復。し。て。見。送。り。多。く。二。回。が。綴。る。毎。先。琴。嶺。の。校。勘。を。指。摘。を。他。儘。を。と。補。ふ  
 便。り。と。因。て。這。般。の。稿。本。の。十。の。巻。百。十。回。ま。で。皆。琴。嶺。領。見。せ。る。が。十一。の。巻。の。中央。ま。至。れる。百。十二  
 回。十五。頁。の。五。月。朝。日。綴。り。か。ども。あ。い。の。琴。嶺。全。病。着。既。不。重。を。言。れ。予。ハ。な。り。と。も。の。さ。り。他。が。て  
 や。く。少。知。く。い。う。校。勘。甚。く。不。一。と。病。の。牀。に。在。り。と。叮。寧。不。誤。脱。と。訂。めて。親。の。資。助。を。せ。り。お  
 又。を。ま。ぐ。も。あ。ら。ま。り。と。高。き。ま。う。歎。息。の。い。よ。い。よ。あ。れ。ば。  
 た。ま。せん。便。り。の。今。い。ふ。人。の。見。て。お。め。み。綴。り。と。い。ひ。お。実。吾。の。歌。の。と。綴。り。と。い。ひ。お。査。ね。と。い。ひ。お  
 一の。理。の。ま。れ。と。難。て。の。ま。あ。り。の。程。の。事。い。く。翁。の。病。着。八。月。下。旬。本。復。の。時。を。是。より。と。彼。百。十三。回。の。四  
 五。頁。送。れ。と。十。の。卷。上。下。冊。百。五。回。終。り。是。十。月。朝。日。綴。り。果。され。喜。び。僕。の。後。本。巻。を。四。方。の。君  
 子。の。ま。が。か。思。ハ。い。も。短。筆。を。長。う。り。本。輯。二。帙。前。後。の。發。販。料。の。今。ま。遲。滞。せ。よ。と。白。地。の。生。ま。る。を。免



○曲亭編述八犬傳第九輯中帙七与画工筆畊人目次

柳川重信

筆工 摺 卷

第百八回第百上高

卷七九十一

割 卷八十二上

卷十

谷 形 金 道 友 川

千 形 田 守

櫻 木 藤 吉

高 木 剪 榿

○著作堂手集國字辨史新舊畧目 書 林 文 溪 堂 藏 板

南總里見八犬傳第九輯下帙

第一輯より第九輯中帙まで上七卷既刊の訖ぬ第九輯下帙七冊丙申夏出版共二十八卷より全部とす

近世説美少年録第四集

本集の稿本とて、曲亭翁の遺稿と云ふものも、其の間に、八犬傳全部の次、綴りたるものあり、其の列の遠慮あり、○五巻近則

莊蝶老翁再遊外紀第一集

蝴蝶物語本有、盛りの原因、盛りの名、號と改め、莊蝶翁、自給、ゆゑ、異域奇邦遊歴の稿、向、前、集、續、て、近、世、則、實、屋、の、庫、藏、の、古、の、流、と、て、夜、の、説、法、風、の、退、け、俗、説、辨、の、堅、を、去、り、平、多、の、綴、り、と、す、上、は、世、俗、の、醒、を、新、書、と、す、○五巻近則

好事先生醒俗異聞第一集

百人の列傳と綴りたる、其の傍、像、新、の、目、録、聖、數、外、書、評、注、の、足、多、補、の、謬、を、正、し、小、説、の、好、む、者、子、等、の、爲、に、○五巻末則

水滸畧傳第一集

水滸後傳四十回と譯、文、筆、削、り、て、謬、を、補、以、拙、に、傳、り、更、も、且、手、画、と、す、如、し、通、俗、本、と、同、く、○五巻末則

水滸後畫傳第一集

且、手、画、と、す、如、し、通、俗、本、と、同、く、○五巻末則

大阪	河内屋善兵衛	東京	須原屋茂兵衛
同	伊丹屋善兵衛	同	山城屋佐兵衛
同	敦賀屋九兵衛	同	小林新兵衛
同	秋田屋太右門	同	丸屋善七
同	河内屋茂兵衛	同	和泉屋市兵衛
同	河内屋和助	同	須原屋伊八
同	秋田屋市兵衛	同	出雲寺萬治郎
西京	出雲寺文次郎	同	椀屋喜兵衛
同	村上勘兵衛	同	近江屋半七
同	勝村治右衛門	同	長門屋龜七
同	杉本甚助	同	三家村佐平

名山閣

東京芝大神宮前書舖

和泉屋吉兵衛發售



